

「日米大学間での Telecollaboration プロジェクトーバーチャル言語交換で得たもの」

Telecollaborative project between a Japanese university and an American university -  
What did the learners gain from the virtual language exchange?

本発表はアメリカの日本語学習者と日本の英語学習者間で行った Telecollaboration プロジェクトの実践報告である。Telecollaboration とは、地理的に離れた相手と、e-mail や videoconference などオンラインのシステムを使用して、バーチャルの国際交流を行うことで、異文化コミュニケーション力や言語力の上達に効果的であると広く認識されはじめており (O’Dowd, 2010)、近年、外国語教育においても、広く取り入れられ、言語学習への効果が明らかとなっている (Greenfield, 2003; Muehleisen, 1997; O’Dowd, 2003; Sakar, 2001; Vintage, 2005)。

このプロジェクトは東京の某大学の英語のクラスとニューヨークにある某大学の日本語のクラスで 2016 年と 2017 年の秋学期の二回にわたり実施されたもので、日本の大学生とアメリカの大学生がそれぞれの学習言語で アンケート調査をしあうプロジェクトである。日本とアメリカの学生がペアになり、まず Eメールで自己紹介した後、それぞれが作成したアンケートを送り合い、回答する。回答を受けた後、LINE の video-interview を使用しフォローアップインタビューをする。この過程で得た情報をもとに、学生はレポートを提出し、学期末には口頭発表をする。後のアンケート調査では、このプロジェクトが学習者の言語学習へのモチベーションを高め、語学力の向上につながったことがわかった。また、パートナーとの言語、文化交流を楽しみ、その経験から異文化理解への関心も高まったことがうかがえた。

本発表では、プロジェクト実践の過程を詳述し、学生が書いたアンケートや、フィードバックを紹介するとともに、動機付け、Telecollaboration を通しての言語学習、異文化理解について報告する。また、評価方法についても触れ、今後の課題、その他の可能性について考察する。